

# 解説集 平成 28 年度重点問題

## 問 1

【評価軸】

要介護認定の基本調査項目の 3 つの評価軸として誤っているものはどれですか。

回答	【解説】
<input type="radio"/> 身体的能力	<p>【3つの評価軸について】</p> <p>基本調査項目には、①能力を確認して判定する“能力”、②生活を営む上で他者からどのような介助が提供されているかで判定する“介助の方法”、あるいは、③障害や現象・行動の有無で判定する“有無”を確認して判定するというように、判定の基準が3軸あります。</p>
<input type="radio"/> 介助の方法	
<input type="radio"/> 有無	

## 問 2

【評価軸】

正しければ○、誤っていれば×を選択してください。

「移動」「えん下」「食事摂取」「外出頻度」など『2群』はすべて介助の方法で評価する項目である。

回答	【解説】
<input type="radio"/> ○	<p>【3つの評価軸について】</p> <p>2群の「えん下」は“能力”、「外出頻度」は“有無”で、その他の調査項目はすべて“介助の方法”の基本調査項目です。</p>
<input type="radio"/> ×	

## 問 3

【評価軸】

次のうち、評価軸の解釈に基づいた調査で正しいものはどれですか。

回答	【解説】
<input type="radio"/> ○ 「能力」で評価を行う基本調査項目は「できる」か「できない」かを中心に調査を行うことが重要である	<p>【3つの評価軸について】</p> <p>「介助の方法」で評価する基本調査項目について、認定調査員が、「実際に行われている介助が不適切な状況にある」と判断された場合は、単に「できるーできない」といった個々の行為の能力のみで評価せず、生活環境や本人の置かれている状態なども含めて、総合的に判断します。</p> <p>また、BPSD関連の「有無」で評価をする基本調査項目は、「行動が発生している」か「行動が発生していない」かに基づいて選択します。</p>
<input type="radio"/> 「介助の方法」で評価を行う基本調査項目は、具体的に介助が「行われているー行われていない」かを中心に調査を行い、その介助の適切・不適切について判断してはならない	
<input type="radio"/> BPSD関連の「有無」で評価を行う基本調査項目は「日常生活上の支障が発生している」か「発生していない」かを中心に調査を行うことが重要である	

### 問 4

【有無（BPSD 関連）】

正しければ○、誤っていれば×を選択してください。

BPSD 関連の基本調査項目の選択肢の選択では、行動が発生しているかどうかで選択し、介護の手間が発生しているかどうかでは選択しない。	
回答	【解説】
○ ○	<b>【基本調査について】</b> BPSD 関連の有無だけでは、介護の手間が発生しているかどうかは必ずしも判断できないため、二次判定で介護の手間を適切に評価するためには、特記事項に、それらの有無によって発生している介護の手間を、頻度も合わせて記載する必要があります。
×	

### 問 5

【有無（過去 14 日間にうけた特別な医療）】

特別な医療について、正しいのはどれですか。

回答	【解説】
○ 継続して実施されているもののみを対象としている	<b>【特別な医療の定義】</b> 「過去 14 日間にうけた特別な医療の有無」を評価する項目です。医師の指示が過去 14 日以内に行われているかどうかは問いません。継続して実施されているもののみを対象とし、急性疾患への対応で一時的に実施される医療行為は含みません。 なお、医療機関に記載内容を確認することは守秘義務の問題及び治療上の必要から治療内容について告知を行っていない場合があるため適切ではありません。
医師の指示が過去 14 日以内に行われているものに限定される	
調査対象者や家族、介護者から情報を得る以外にも医療機関などから情報を聞くことも必要である	

### 問 6

【1-3 寝返り】

下半身の麻痺があり、上半身だけならば何にもつかまらないで自力で寝返りができる場合、基本調査はどれを選択しますか。

回答	【解説】
○ つかまらないでできる	<b>【寝返りの選択基準】</b> きちんと横向きにならなくても横たわったまま左右どちらか(片方だけでよい) に向きを変えられる場合は、「つかまらないでできる」を選択します。
何かにつかまればできる	
できない	

### 問 7

【1-4 起き上がり】

基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。

調査時も日頃も、ベッド柵につかまれば自力で「起き上がり」できるが、日頃は家族が起き上がりの介助をしている。	
回答	【解説】
○ 何かにつかまればできる	<p>【能力の評価軸について】</p> <p>“能力”で評価する基本調査項目は、基本的に調査項目ごとに定められた「確認動作」の試行と、「日頃の状況」の聞き取りの2つにより、調査を行います。</p> <p>日常生活上の支障の有無とは関係なく、確認動作と日頃の状況で選択します。</p> <p>その行為ができないことによって介助が発生しているかどうか、あるいは日常生活上の支障があるかないかは選択基準に含まれません。</p>
できない	

### 問 8

【1-5 座位保持】

基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。

背もたれがない状態での座位の状態を 10 分程度保持できる能力は確認でき、日頃の能力も同様である。ただし、いつもは居間で背もたれやクッションに寄り掛かりくつろいでいる。	
回答	【解説】
○ できる	<p>【評価軸について（能力）】“能力”で評価する項目は、調査項目ごとに定められた「確認動作」の試行と、「日頃の状況」の聞き取りの2つにより、基本的に調査を行います。日頃の状況についても、普段どのようにしているかではなく、普段、当該行動等について「<u>できるか</u>」か「<u>できないか</u>」を評価します。</p>
支えてもらえればできる	

## 問 9

【2-3 えん下】

固形物か液体かによってえん下の能力が異なる場合の選択方法について、正しいものはどれですか。	
回答	【解説】
液体は食物に含まないので、固形物のえん下能力で選択する	<b>【調査上の留意点】</b> 固形物か、液体かどうか等、食物の形状（普通食、きざみ食、ミキサー食、流動食等）によって異なる場合は日頃の状況で、飲み込みができるかどうかを選択します。 その場合、その日頃の状況等について、具体的な内容を特記事項に記載します。
固形物か液体のいずれか一方でもできなければ、「できない」を選択する	
○ 一定期間（調査日より概ね 1 週間）の状況において、より頻回な状況で選択する	

## 問 10

【3-4 短期記憶】

面接調査の直前に何をしていたか思い出すことの確認が難しい場合に行う、「ペン」「時計」「視力確認表」を使った短期記憶の確認について、適切なものはどれですか。	
回答	【解説】
見えないところにしまって 5 分以上してから 2 つ答えられるかを確認する	<b>【調査上の留意点】</b> 面接調査直前または当日行ったことについて具体的に答えることができれば、「できる」を選択します。 このような質問で確認が難しい場合は、「ペン」「時計」「視力確認表」を見せて、何があるか復唱をさせ、何がなくなったかを問うので覚えておくように指示します。5 分以上してからこれらの物のうち 2 つを提示し、提示されていないものについて答えられたかで選択します。
見えないところにしまって 5 分以上してから 3 つすべてを答えられるかを確認する	
○ 見えないところにしまって 5 分以上してから 2 つを提示し、提示されていないものについて、答えられるかを確認する	

### 問 11

【2-1 移乗】

正しければ○、誤っていれば×を選択してください。

本人に移乗の身体能力があるにも関わらず、介助が行われている場合は、「常に」不適切な状況と判断して適切な介助の方法を選択する。	
回答	【解説】
○	<p>【「実際の介助の方法」が不適切な場合】</p> <p>認定調査員が、「実際に行われている介助が不適切」と考える場合には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独居や日中独居等による介護者不在のために適切な介助が提供されていない場合</li> <li>・ 介護放棄、介護抵抗のために適切な介助が提供されていない場合</li> <li>・ 介護者の心身の状態から介助が提供できない場合</li> <li>・ 介護者による介助が、むしろ本人の自立を阻害しているような場合など、<b>対象者が不適切な状況に置かれている</b>と認定調査員が判断する様々な状況が想定されます。</li> </ul> <p>また、適切かどうかの判断は、単に「できるーできない」といった個々の行為の能力のみで評価せず、生活環境や本人の置かれている状態なども含めて、総合的に判断します。</p>
○ ×	

### 問 12

【2-2 移動】

基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。

居室の隣にあるトイレまでの移動（5回程度/日）など、通常は介助なしで行っているが、居室から離れた食堂（3回/日）及び浴室（週2回）への車いすでの移動は全介助となる。（ただし、不適切な状況にはないものとします。）	
回答	【解説】
○ 介助されていない	<p>【発生頻度の多い行為について】</p> <p>一定期間（調査日より概ね過去1週間）の状況において、より頻回に見られる状況や日頃の状況で選択します。その場合、その日頃の状況や介護の手間等について、具体的な内容を「特記事項」に記載します。</p>
一部介助	
全介助	

### 問 13

【2-2 移動】

「移動」について、正しいのはどれですか。	
回答	【解説】
<input type="checkbox"/> 常時の付き添いの必要がある見守りが行われているため「一部介助」を選択する	<b>【調査上の留意点】</b> 「移動」は、日常生活において、食事や排泄、入浴等で、必要な場所への移動にあたって、“介助”が行われているかどうかを評価する項目です。 外出行為に関しては含みません。 また、記載内容が選択肢の選択基準に含まれていないことであっても、介護の手間に関係する内容があれば、特記事項に記載することが重要です。
<input type="checkbox"/> 車いすへの移乗に一部介助が行われているので移動も「一部介助」を選択する	
<input checked="" type="radio"/> 外出行為について、移動の基本調査項目の選択では評価しないが、介助が行われているため特記事項に記載する	

### 問 14

【2-8 洗顔】

次のうち、洗顔の介助として評価されるものはどれですか。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)	
回答	【解説】
<input type="checkbox"/> 洗面所への誘導	<b>【洗顔の定義】</b> 「タオルの準備」「蛇口をひねる」「顔を洗う」「タオルで拭く」「衣服の濡れの確認」等の一連の行為に“介助”が行われているかどうかを評価します。 洗面所への誘導、移動、洗面所周辺の掃除等は含みません。
<input type="checkbox"/> 洗面所周辺の掃除	
<input checked="" type="radio"/> 衣服の濡れの確認	

### 問 15

【5-1 薬の内服】

基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。

介護者があらかじめ分包しておく、自分で薬、水を用意して飲んでいる。(ただし、不適切な状況にはないものとします。)	
回答	【解説】
<input type="checkbox"/> 介助されていない	<b>【調査上の留意点】</b> 薬を飲む際の見守り、飲む量の指示等が行われている、あるいは、飲む薬や水を手元に用意する、オブラートに包む、介護者が分包する等、何らかの“介助”が行われている場合は、「一部介助」を選択します。 なお、あらかじめ薬局で分包されている場合は含みません。
<input checked="" type="radio"/> 一部介助	
<input type="checkbox"/> 全介助	

### 問 16

【1-1 麻痺等の有無】

右下肢が欠損して確認動作が行えない場合、基本調査ではどれを選択しますか。

回答		【解説】
	「右下肢」を選択する	<b>【調査上の留意点】</b> 四肢のいずれかが欠損している場合の選択肢の選択においては、「その他（四肢の欠損）」を選択します。さらに、欠損によって目的とする確認動作が行えない場合は、欠損している部位の選択肢も選択します。
<input checked="" type="radio"/>	「右下肢」と「その他」を選択する	
	「その他」を選択する	

### 問 17

【1-1 麻痺等の有無】

( ) に当てはまる言葉を選んでください。

軽度の可動域制限がある場合は、( )。

回答		【解説】
<input checked="" type="radio"/>	関節の動く範囲で確認動作を行う	<b>【調査上の留意点】</b> 軽度の可動域制限の場合は、関節の動く範囲で行います。なお、関節に著しい可動域制限があり、関節の運動ができないために目的とする確認動作が行えない場合は該当する部位を選択します。
	「麻痺あり」とし、該当する部位を選択する	
	「その他」を選択する	

### 問 18

【1-2 拘縮の有無】

( ) に当てはまる言葉を選んでください。

「股関節」は、( ) に可動域制限がある場合を「制限あり」とする。

回答		【解説】
	屈曲（45 度程度）または外転（15cm 程度）のいずれか	<b>【股関節の確認動作】</b> 仰向けに寝た姿勢で膝を曲げたままで、股関節が直角（90 度）程度曲がれば「制限なし」とします。また、仰向けに寝た姿勢あるいは座位で、膝が閉じた状態から見て、膝の内側を 25 cm 程度開くことができれば「制限なし」とします。
	屈曲（90 度程度）または外転（15cm 程度）のいずれか	
<input checked="" type="radio"/>	屈曲（90 度程度）または外転（25cm 程度）のいずれか	

## 問 19

### 【4-4 昼夜逆転】

( ) に当てはまる言葉を選んでください。

夜間に何度も目覚めることがあり、そのために疲労や眠気があり活動できない、( ) 昼と夜の生活が逆転し、通常、日中行われる行為を夜間行っているなどの状況をいう。

回答		【解説】
<input type="radio"/>	もしくは	<b>【昼夜逆転の定義】</b> 「昼夜逆転」とは、夜間に何度も目覚めることがあり、そのために疲労や眠気があり日中に活動できない、もしくは昼と夜の生活が逆転し、通常、日中行われる行為を夜間行っているなどの状況のことです。
	かつ	

## 問 20

### 【4-13 独り言・独り笑い】

基本調査で、どの選択肢を選択すればよいですか。

場面や状況とは無関係に、明らかに周囲の状況に合致していないにもかかわらず、独り言を言い続けることが週 1 回ほどある。家族は今のところ、なにも対応していない。

回答	【解説】
<input type="radio"/> 「ある」を選択し、特記事項に家族の対応状況を記載する	<b>【調査上の留意点】</b> BPSD 関連の基本調査項目は、過去 1 か月間の状況から、現在の環境でその行動が現れたかどうかに基づいて選択します。 BPSD 関連の基本調査項目は、その有無だけで介護の手間が発生しているかどうかは必ずしも判断できないため、二次判定で介護の手間を適切に評価するためには、特記事項に、それらの有無によって発生している介護の手間を、頻度も合わせて記載する必要があります。また、介護者が特に対応をとっていない場合などについても特記事項に記載します。
「ときどきある」を選択し、特記事項に家族の対応状況を記載する	
「ない」を選択し、特記事項に家族の対応状況を記載する	